

市民と議員の懇談会2023

「防災・減災で、より安心・安全のまちづくり」

議会報告会2023テーマ
「防災・減災で、より安心・安全のまちづくり」

市民と議員の懇談会

鶴ヶ島市は、災害が少ないまちと謳われています。より防災の少ないまち、さらに災害のないまちにしたいために、皆様と一緒に考えましょう。

日時：11/19(日) 10:00~12:00
会場：鶴ヶ島市役所3階 議場
オンラインでも参加できます。市議会中からアクセスください。

懇談会では皆さんの疑問に答えます

問 上広谷で水害危機があったとき、班長が雨の中を連絡に走った。自治会の役割は何か。

答 自治会、支え合い協議会や自主防災組織は、共助の担い手となります。



問 過去の大震災では物流が滞った。鶴ヶ島に物資が届かなくなる。帰宅困難者も出るだろう。現状の備蓄では足りないのでは。対策はどうするのか。

答 帰宅困難者はワカバウォーク内にある若葉駅前出張所などでも受け入れ可能。備蓄品については、埼玉県との基準に則り、県と市を合わせて避難想定人数×3日分用意している。



問 女性目線の備蓄品について。

問 新たに防災倉庫ができているが、災害時の使い方がわからない。

市民と議員の懇談会でいただいたご意見は、今後の一般質問や委員会などで質疑内容とする可能性があります。引き続き議会だよりなどでご確認いただくと幸いです。

11月19日(日)「防災・減災で、より安心・安全のまちづくり」をテーマに、市役所議場とZOOMでのオンライン参加により市民と議員の懇談会を開催しました。全体で52人の方にご参加いただきました。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。ご意見が反映しているようにしっかりと伝えさせていただきます。

アンケート意見 (一部の紹介)

- 地震や風害の二次災害である住宅火災が地域災害となるリスクが最も大きいと考える。防災対象に加えてほしい。
- チェックリスト等を用意し市役所と住民が情報共有し、助け合うような流れを考えるとほしい。
- 防災・減災ではなく予防・予知の観点で、災害が起きても支障のない体制づくりを。
- 開催時間を長くしてほしい。
- 一人ひとりの持ち時間を決めてはどうか。
- 子育て世代や若い世代の参加を促すよう、子どもの一時的預かりなどを検討してほしい。

紙面の構成上、意見の一部を掲載しています。ホームページへも掲載しています。ぜひご覧ください。

